

行政視察報告書

この度、株式会社サイボウズ、愛知県安城市議会を視察した概要について、別紙のとおりご報告いたします。

資料その他については、事務局に保管してありますので、ご高覧ください。

平成29年2月14日

タブレット端末導入推進会議

委員長	播磨 博一
副委員長	小野 正伸
委員	奥山 豊和
委員	高橋 聖悟
委員	本間 利博
委員	寿松木 孝

横手市議会議長 佐藤 忠久 様

タブレット端末導入推進会議 行政視察報告書

◎東京都中央区：株式会社サイボウズ（12月20日訪問）

研修事項 グループウェアの活用方法について

《研修の目的》

横手市議会では平成28年9月から議会改革の一環としてタブレット端末の導入を行い、資料のペーパーレス化や情報の調査、共有に活用している。また、端末の導入と同時に議員間及び議会事務局との情報共有を円滑にするため、グループウェア[※]の導入を行っている。グループウェアの活用事例を学ぶため、グループウェアの開発元である「株式会社サイボウズ」本社を訪問し視察と研修を行った。

※グループウェアとは：コンピューターネットワークを利用して、企業などの組織における業務の効率化を図るためのソフトウェアのことで、主に、電子メール、スケジュール管理、資料などを共有するファイル管理や電子掲示板などの機能が搭載される。

《会社の概要》

1997年創業。グループウェアソフトの開発、販売を専門に展開。顧客事業所は1万社以上に及び、グループウェアでは国内最大のシェアを持っている。2006年には東証一部に上場をしている。社名の由来は「c y b e r（サイバー）」と「b o z e（坊主）」を組み合わせた造語で、「**電**脳社会の未来を担う者達」という意味が込められている。

《研修の概要》

研修ではサイボウズ株式会社営業本部 パートナー営業部副部長 清田氏にご対応いただいた。

導入企業では、情報共有のツールとして活用されているほかに、ファイル管理機能を使った社内資料や会議資料のデータベースとしての利用がされており、資料のペーパーレス化が図られているとのことだった。子育て社員の在宅勤務を手助けするツールとしても活用されており、弾力的な勤務に対応した機能の紹介があった。

また、製品のプランによっては、グループウェア内に企業独自のアプリケーションを組みこむこともでき、社内アンケートや勤怠管理への活用も進んでいるとのことだった。



説明の中で議会での活用が期待できると感じた機能は以下のとおり。

(1) 所属先の複数設定が可能

グループウェアでは所属ごとにグループ設定することができ、共有情報の範囲や電子メールのコメントの共有などが容易にできるようになっている。また、複数の所属（兼務）の設定も可能になっている。議会では議員は会派や委員会、議員連盟、作業部会など一人で複数の組織にまたがった活動をしており、柔軟な所属設定ができると感じた。

(2) 閲覧しやすい電子メール

サイボウズの電子メールは、メール内の文字の色や大きさを変更したり、メール内に表や写真を挿入することもできるため、添付ファイルを開かなくても一画面で視覚的に確認できる様な通知の送り方ができる。うまく組み合わせることで、通常の電子メールに比べて見やすい通知を送ることが出来ると感じた。また個々の閲覧状況も確認できるため、情報の伝達状況が一目でわかることも確実な情報伝達を確認する上で有効であると感じた。

(3) 柔軟なスケジュール管理

議会の公的行事は議会事務局で対象議員のスケジュールに入れて行く。このスケジュールは他議員の分も確認をする事が出来る。一方、個人的なスケジュールは各議員が必要に応じて入力していくが、他者に見られないように設定することもできるため、個々の実情に合わせた柔軟なスケジュールの管理が可能になっている。

(4) スマートフォンとの連携

当市議会を導入しているグループウェア製品は、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）を介して利用する方式である。そのため、各議員のスマートフォンからも同様のサービスが利用できる。タブレット端末が手元にない時であっても、スマートフォンで通知やスケジュール等の確認や管理が行えるため、一層機動的に活用ができると感じた。

【所 感】

現在利用している電子メールやスケジュール機能だけでも情報スピードの向上を実感しているところだが、今後一層機能を活用することによって、議会活動の質の向上が図れる手ごたえを感じた。企業では在宅勤務などの「働き方改革」のツールとしてグループウェアを活用しているところもあり、そういった事例も参考に議会としての活用方法を今後工夫しながら探っていってみたいと思う。



サイボウズ本社エントランスホールにて

サイボウズ本社は遊び心に満ちたオフィス空間で、独創的なアイディアはこういった職場環境から生み出されるのかもしれないと刺激を受けた研修であった。

◎愛知県安城市（12月21日訪問）

《市の概要》

人口約18万6千人。明治用水の豊かな水にはぐくまれ「日本のデンマーク」と呼ばれるほど農業先進都市として発展してきた。一方、名古屋市から約30キロメートルと近く、豊田市などの内陸工業都市や碧南市などの衣浦臨海工業都市に隣接するという地理的条件にも恵まれ、近年は自動車関連企業をはじめとする大企業の進出、住宅団地の建設が盛んになり急速に都市化が進んでいる。市制施行当時約3万8千人であった人口は増加が続き、今後も30年間は増加が見込まれる。

調査事項 「タブレット端末を活用した議会運営」について



《視察の目的》

安城市議会は平成28年3月にタブレット端末を導入している。安城市議会を視察先とした理由は、横手市議会と同じ機種（iPad-Pro）を導入し、ペーパーレス会議システムやグループウェアも同じ製品を導入しているため、横手市議会と運用が非常に近いであろうということから運用の状況と課題を視察し、情報交換するため訪問した。また、議会ICT推進基本計画を策定し、計画的に市議会の情報化を進めており、その取り組みについても調査した。

《視察の概要》

視察では安城市議会ICT推進プロジェクトチーム座長の坂部隆志副議長と、副座長の深津修議員にご対応いただいた。坂部座長はアイシン精機でシステムエンジニアとして活躍された方で、専門的な知見に基づいた取り組みのご説明をいただいた。共にタブレット端末を導入済みの議会であることから、運用についての意見交換を中心に視察を進めた。



ご説明いただいた、プロジェクトチームの坂部座長（左）と深津副座長（右）

以下に安城市議会の特徴的な取り組みについて報告する。

(1) 操作講習は徹底的に実施する

導入から 8 カ月が経過するが、まだ操作に不慣れな議員がいる状況であり、それを解消するべく定例会の都度、実際の議案を用いて操作講習会を実施している。また、操作講習会には全議員が参加して不慣れな議員だけではなく講習を受けている。講習会では操作に習熟した議員は不慣れな議員のサポートをするなどして、議会全体でペーパーレス会議システムの習熟に努めている。

(2) 定例会の紙資料の配布は会派に 1 部のみ

当初紙資料は 1 年間併用することとしていたが、操作習熟が進み 6 月定例会からは、紙資料は原則各会派に 1 部のみ配布とした。9 月定例会では決算書のみを紙で配布した。しかし、完全ペーパーレス化が目的ではない。紙と電子データのどのような組み合わせが一番使いやすい形であるかを探っている。

(3) 利用基準は最小限のルールの規定に留める

取扱い基準では必要最小限の内容を定め、問題が発生した場合は議員個人の責任で説明、対応を行う。あまり縛りすぎると活用を制限することになるため、常識的な部分のみを規定している。また、議場内のインターネット利用に制限は無い。疑問に思ったことを調べることで質疑の質が上がるため議論が深まると考えている。

また、所属外の委員会等の資料も全て閲覧が可能ないようにしている。議会の情報なので議員全員が共有するというスタンス。また、全ての資料を印刷できるようにしており、議員個々が自由に印刷することを認めている。

(4) 万一の通信障害に備えて庁舎の wi-fi (ワイファイ) 環境を整備

議場、委員会室、議員控室には wi-fi 設備を整備した。万一の通信障害時はタブレット端末の電話回線を利用することにして、通信方法を二重化する体制にしている。

(5) 資料はペーパーレス会議システムとグループウェアの両方に保存

グループウェアとペーパーレス会議システムのどちらにも同じ資料を保存している。ただしペーパーレス会議システムのクラウド容量が少ないため、今後はペーパーレス会議システムでは使用が終わった資料は削除して、グループウェアで資料管理することも運用として考えている。また、既に公開されている計画等は市のホームページ上から閲覧してもらうなどしてクラウドの容量節減に努めている。

(6) 当局の説明はタブレット前提で説明するよう要請

執行部側はまだタブレットの導入はしていない。しかし、議員からのタブレットを活用した質疑に対応するため、部長級はノートパソコンを持ち込んで議会のペーパーレス化に対応している。執行部側が説明する際には、紙媒体前提ではなく、タブレットの電子データで閲覧していることを前提に説明をしてもらうように要請をしている。

(7) 今後の取り組み等について

愛知県内でも安城市の導入に刺激され、導入の検討に入っている議会が多いという。来年度には愛知県内でも 10 以上の議会が導入するのではないかと見込んでいる。既に今年度は県内外から 32 の視察受入を行っており、導入直前の議会も多く、タブレット端末導入は全国的

な流れになっていることを実感しているとのことだった。

費用対効果については、紙の削減や人件費など見える効果は示しやすいが、議員活動の質の向上や議会の活性化などは、最も効果があるところではあるが見える形にするのが難しい。今後、この部分をしっかり出していく事を議会内で共有していく。

坂部座長個人の思いとしては、今後はICTを活用して市民に身近な議会情報を発信して、議員の素顔が見えるような開かれた議会の活動を行っていく事を目指したいとの強い決意を述べられていた。

【所 感】

横手市議会よりも6ヶ月早くタブレット端末を導入していることから、本会議や日常運用で蓄積されたノウハウを学ぶことができた。同じタブレット端末、システムを使っているため、実践的な情報交換を行うことができ、今後の横手市議会での運用に大いに参考になるものであった。また、縛りをかけすぎない運用基準など、横手市議会が進めている手法と通じるものも多く、取り組んでいる方向性を改めて確認することができたことも収穫だった。

安城市議会に見習うべき点は、議員アンケートなどにより状況把握に努めていることと、議会全体で議員の操作習熟度の底上げを図っているという点である。先般、安城市議会に倣い当市議会でも議員アンケートを実施したところであり、その結果を検証して今後の運営に反映していきたい。

タブレット端末の導入はペーパーレス化自体が最終目的ではなく、議会運営の効率化と情報の迅速化、そして審議における議論の質の向上と市民へ導入効果を還元することである。この目標を達成するため、推進会議でも不断の努力を続けていきたい。

安城市議会とは今回の視察を縁に、今後とも情報交換を続けていきたいと思う。

以上、報告いたします。

